

たけのこだより

京都市立竹田小学校
校長 大西 一幸

令和3年度 前期学校教育アンケートの結果を振り返って

	質問項目	保護者 重要度	教職員 重要度	児童 実現度	保護者 実現度	教職員 実現度
①	じゅぎょうにまじめにとりくみ、はなしをしっかりきいたり、はっぴょうしたりしている	97	100	85	78	100
②	ともだちときょうりよくしてべんきょうしている	97	100	91	84	92
③	いえでかならずしゅくだいやじしゅがくしゅうをしている	99	100	92	84	83
④	ほんをよくよんでいる	98	100	83	55	77
⑤	まわりのひとにすすんであいさつしている	100	100	79	84	100
⑥	やくそくやきまりをまもっている	100	100	88	89	100
⑦	はやね・はやおきをし、ごはんをしっかりたべている	100	100	84	87	92
⑧	すすんでうんどうしている	95	100	86	72	92
⑨	ともだちとなかよくあそんでいる	98	100	96	94	83
⑩	いえのひととよくはなしている	100	100	96	96	79
⑪	こまったときはせんせいにそうだんしている	98	100	81	87	100

保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校教育活動にご理解・ご協力いただき誠にありがとうございます。夏休み前にご協力いただきました学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

学校教育目標『夢に向かって輝く、竹田っ子 ～「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」をめざして～』を具現化するために、学校や家庭で大切にしたいことを児童・保護者・教職員がそれぞれ自らをふりかえることができる項目・内容をたずねる形式で実施しています。

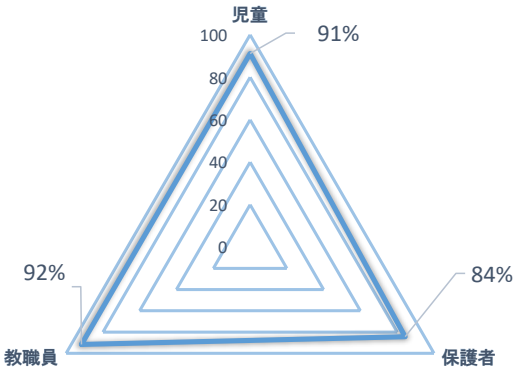
学校教育アンケート(児童・保護者・教職員)の結果は、**重要度**(「重要である」「やや重要である」を合わせた数値)、**実現度**(「よくできている」「大体できている」を合わせた数値)が全体に占める割合で表しています。

重要度の集計結果から

【保護者・教職員のみ】

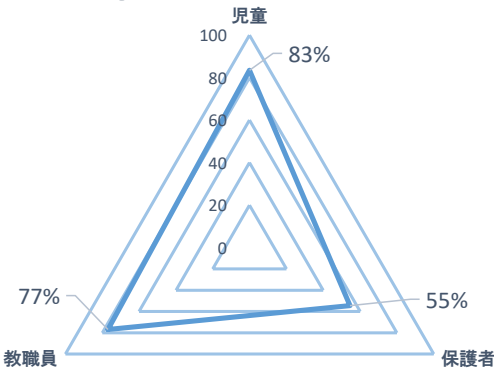
保護者の方は、全項目で95%から100%の重要度でした。質問項目⑤あいさつについては、ここ数年100%を保っており、学校、地域を挙げて高めていきたい項目と言えます。教職員は、全項目とも100%でした。

②友達と協力して勉強している



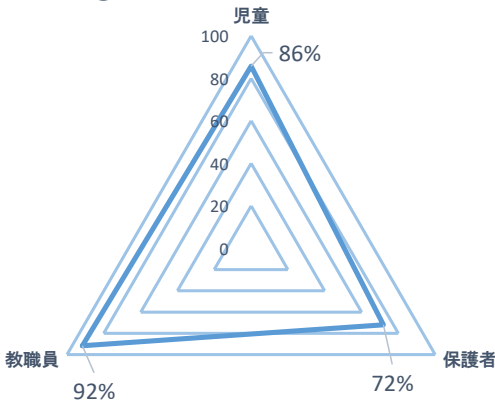
子どもたちの実現度は91%、保護者は84%という結果になりました。コロナ禍で周りと協力して活動することに制限が課された中、GIGA端末を使うことによって、多くの人の考えを知ったり、自分の考えを多くの人に伝えたりすることができるようになりました。子どもたち自身もGIGA端末を使うことに高い興味関心を持って取り組んでいます。今後も情報活用能力を高めるとともに情報モラルにも力を入れて正しい使い方を意識させていきたいです。

④本をよく読んでいる



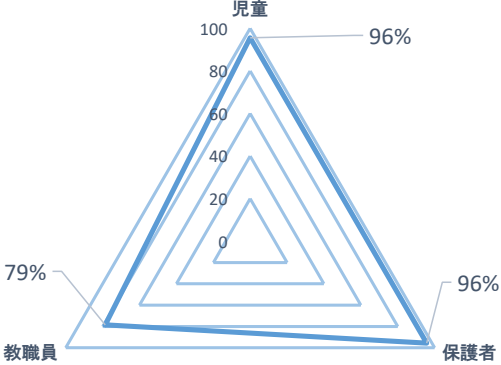
本校の課題の一つである読書ですが、例年と比べて減少はしていないものの、大きな改善には至っておりません。図書館の利用は例年より増加していますが、借りた本は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学校のみ利用に制限しているなど大きな要因かもしれません。また、読書タイム・GIGAタイム・スキルタイムなど時間を使い分けているため子どもたちがじっくり本に親しむ時間が減ってしまっている状況です。今後、委員会活動と協力して読書への啓発とともに、コロナ禍が沈静化に向かえば「選書会」なども開き、読書への興味関心を高めていきたいと思っています。

⑧すすんで運動している



昨年度より新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休み時間の遊び方や体育など、子どもたちの運動する機会が制限されることになりました。しかし、コロナ禍の中で個人・グループでできる運動や遊びなど、工夫しながら体を動かすことができ、休み時間も進んで体を動かす児童が多く見られます。数値的にも昨年度よりも上昇傾向にあり、今後も、活動前後の手洗いやマスクの着用など感染拡大防止に努めながらも、子どもたちが運動する場の設定を工夫していきます。

⑩家の人とよく話している



児童・保護者の実現度は高く、コロナ禍の中、活動に制限はあるが家庭での時間が増えた分、家族との交流が増えた傾向にあります。一方で教職員は79%という結果になりました。これは、1学期に予定していた家庭訪問、学級懇談会が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、保護者と十分にお話できなかったことが大きな理由に挙げられます。本校は家庭訪問や保護者との対話を大切にしてきましたが、現在のコロナ禍では難しい状況で心苦しく思っております。早くコロナが終息し安心して毎日を過ごせるよう願っています。

自由記述欄から

(いただきました全てのご意見は教職員全員で共有しております。)

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止対策で、学校教育活動においてご不便をおかけしております。特に、子どもたち、保護者にとって、学習活動の制限や楽しみにしていた行事の延期・中止など不安な思いをさせてしまい申し訳ありません。そんな状況下で学校の取組に対しても温かいお言葉を多数頂戴し、感謝致しております。2学期以降も感染対策を意識しながら子どもたち一人一人を大切にしていきたいと思っています。

学校運営協議会理事会より

3か月の臨時休業を経て、子どもたちがようやく学校に行くことができ大変うれしく思います。外出を控え、周りとのかわりを制限されていた子どもたちが、再び学校で友達や教職員と多くのことを学んでほしいと思います。アンケートでは困ったときに相談する実現度が低いようです。成長段階によって伝えられない悩みもあるかもしれませんが、家族や先生方をはじめ地域が一体となって子どもたちを見守っていききたいと思っています。

学校教育アンケート全体を通して

今回は、昨年度に引き続き、コロナ禍で「新しい生活様式」へと社会が大きく変化してきた中でのアンケート実施となりました。結果を見ると、昨年度より各項目において、大きな増減はなく、若干実現度が高い状態です。保護者アンケートの記述からは、行事の中止や延期、活動の制限などを惜しむ声もあれば、GIGA端末を使っでの学習が工夫されているなど、喜ばれている面も多数あり、今後の教育活動の参考となりました。2学期以降は、体育発表会や、新型コロナウイルス感染症拡大防止への対策を進めながら、可能な形で参観・懇談会を実施していきますので、どうぞよろしくお願いします。

また、大人も子どもも悩みを1人で抱え込まないように学校教育活動の中でもサポートしていきたいと考えています。例えば、火曜日にはスクールカウンセラーに来ていただいていますので、必要があればご連絡ください。今後も家庭と学校とが連携し、子どもたちの理解と共に、子どもたちへの関わり方や、よりよい働きかけについて、一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。